

| 重点取組分野 | 令和 4 年度 | | 総括 | 重点取組分野 | 令和 5 年度 | | 総括 | 重点取組分野 | 令和 6 年度 | | 総括 |
|----------------|---|---|----|----------------|--|--------|----|----------------|---------|--------|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | | | 具体的取組 | 自己評価結果 | | | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 生きて働く知 | ①全学級で「市場スタンダード」を学びの基盤とした指導を行い、生活や学びの基礎・基本の定着を目指す。 ②横浜が大切に「三つのつながり」を意識し、日々の学びの姿「じっくり考え 高め合い 次につなげる確かな学び」の実現に向けた授業を展開する。 | ①全教職員が「市場スタンダード」にもとづいて教育活動が行えるよう、4月に冊子を見ながら確認できたことで、スムーズに共通理解ができた。学年を超えて同じ基準で指導を行う様子が見られた。②相手意識を大切に授業が見られるようになった、今後も協働を意識した授業づくりを大切にしたい。 | B | 生きて働く知 | ①全学級で「市場スタンダード」を学びの基盤とした指導を行い、生活や学びの基礎・基本の定着と活用を目指す。②横浜が大切に「三つのつながり」を意識し、日々の学びの姿「じっくり考え 高め合い 次につなげる確かな学び」の実現に向けた授業を展開する。 | | | 生きて働く知 | c1 | | |
| 豊かな心 | ①人権黒板や人権月間の取り組みを通して自他の違いに気づいたり、違いを尊重する活動を展開する。 ②学年児童の多さをメリットとしてとらえ、日常的に大勢の児童のつながりや意識させ、個と集団のめりはりをつけた学習を展開する。③道徳科学習を充実させ、自己を振り返る力を身に付けさせる。 | ①③人権月間の取組では、校長の講和や障害者スポーツをきっかけに自分たちの人権はもたらん、社会の中で様々な立場の人々の誰もが安心して豊かに生きていける社会の大切さについて学ぶことができた。②縦割り活動を通じて、優しさや思いやりを育んだり、これから努力していきたいことに気付けたことができた。 | B | 豊かな心 | ①人権月間の取り組みや各教科領域の授業を通して自他の違いに気づいたり、違いを尊重する活動を展開する。②児童の多さをメリットとしてとらえ、計画的に児童のつながりや意識させる取組を実施し、個と集団のめりはりをつけた取組を展開する。③道徳科学習を充実させ、自己を振り返る力を身に付けさせる。 | | | 豊かな心 | c2 | | |
| 健やかな体 | ①体育科学習や特別活動において、人のかかわりの中で楽しさを味わわせ、日常的な運動習慣につなげる。②学校保健委員会を充実させることを通じて保健に関する意識を高め、健康的な生活習慣につなげる。③栄養職員と連携しながら給食指導や教科学習との関連を中心に食の大切さを伝える。 | ①縄跳び大会や持久走など、目標を持たせることで日常的に運動に取り組む児童が増えた。②学校保健委員会を通して校医の方々のアドバイスを発信した。心身の健康について様々な角度から学ぶことができ、保護者・地域にも周知できた。③保健体育や給食指導に栄養教諭や栄養職員が入り、専門的な話を聞くことで栄養についての意識や理解が高まった。 | B | 健やかな体 | ①体育科学習や特別活動において、計画的な取組を通じ、人のかかわりの中で楽しさを味わわせ、日常的な運動習慣につなげる。②学校保健委員会を充実させることを通じて保健に関する意識を高め、健康的な生活習慣につなげる。③栄養職員と連携しながら給食指導や教科学習との関連を中心に食の大切さを伝える。 | | | 健やかな体 | c3 | | |
| 地域連携・学校運営協議会 | ①併設型ブロックの運営協議会と、地域支援組織「創る会」の連携を強化し、学校経営および学校運営についての意見を得る。②地域行事においては、児童・保護者・職員の参加を奨励し、地域の教育力向上、学校教育の啓発に役立てる。 | ①今年度は、計画通りに運営協議会とつくる会を開催することができた。委員の方々に分かりやすいよう資料を工夫し、学校の様子や課題を伝えることができ、多くの意見をいただくことができた。②管理職が積極的に地域と関わることで、地域の方も教育活動に積極的に関わることができた。 | A | 地域連携・学校運営協議会 | ①併設型ブロックの運営協議会と、地域支援組織「創る会」の連携を強化し、学校経営および学校運営についての意見と支援を得る。②地域行事においては、管理職が率先して関わり、児童・保護者・職員の参加を奨励し、地域の教育力向上、学校教育の啓発に役立てる。 | | | 地域連携・学校運営協議会 | c4 | | |
| いじめへの対応 | ①職員会議開催時に「いじめ防止対策委員会」を実施し、校内のいじめ発生状況とその様態、また解消状況を全職員で共有し、いじめ件数の減少、再発防止、適切な指導につなげる。②児童支援専任教諭を中心としたYPをはじめとした研修を実施し、児童一人ひとりの見取りの精度を高める。 | ①計画通りに「いじめ防止対策委員会」を実施することができた。いじめの現状について、全教職員が事実を正しく認識できたことは、大規模校として大変重要なことであった。②YPをもとに、担任だけでなく教科担当や児童支援専任が児童へのアプローチや指導方法を共有することができた。同じ方向性で指導が行えた。 | A | いじめへの対応 | ①職員会議開催時に「いじめ防止対策委員会」を実施し、校内のいじめ発生状況とその様態、また解消状況を全職員で共有し、いじめ件数の減少、再発防止、適切な指導につなげる。②児童支援専任教諭を中心としたYPをはじめとした研修を実施し、児童一人ひとりの見取りの精度を高める。 | | | いじめへの対応 | c5 | | |
| 人材育成・組織運営(働き方) | ①「教職員の資質・能力向上」に向けた研修を実施する。特に、若手教職員育成に向けたメンターチームによる研修を充実させる。②校長のリーダーシップのもと、主幹教諭を核に置いた組織で「チーム市場小」の意識を高め、主幹教諭や各役割のリーダーを中心とした機能的で効率的、かつ活気のある組織を構築する。 | ①メンター研では、授業づくりにおいて当然としていたプロセスを知らない教員もいた。今後指導する必要があることが認識できた。②主幹教諭と管理職で構成された運営委員会を定期的に開催し、学校の課題の認識と解決策や方向性を確認することができた。確認されたことを発信する方法が今後の課題である。 | B | 人材育成・組織運営(働き方) | ①体罰等不適切な指導について、正しい知識理解を得るために研修を計画的に行うとともに、管理職等によるきめ細かい指導が行えるよう授業観察や助言を積極的に行う。②校長のリーダーシップのもと、主幹教諭を核に置いた組織で「チーム市場小」の意識を高め、主幹教諭や各役割のリーダーを中心とした機能的で効率的、かつ活気のある組織を構築する。 | | | 人材育成・組織運営(働き方) | c6 | | |
| 特別支援教育 | ①児童一人ひとりに寄り添う支援の充実を図り、誰もが安心して過ごせる環境を作る。②特別支援コーディネーターを中心とした個別支援・指導体制を確立し、個に応じた支援を充実させる。③他機関との連携を充実させ、職員全体が特別支援に対する力を向上させる。 | ①②前例にとらわれず、児童一人ひとりの課題に合わせて、特別支援教室の利用や保健室登校など個々に応じた支援を可能な限り行った。保護者などの現状の共有も積極的に行った。③児童支援専任や管理職が窓口となり、外部との連携を行うことで、情報の共有や迅速な対応を行うことができた。 | A | 特別支援教育 | ①児童一人ひとりに寄り添う支援の充実を図り、誰もが安心して過ごせる環境を作る。②特別支援コーディネーターを中心とした個別支援・指導体制を確立し、個に応じた支援を充実させる。③他機関との連携を充実させ、職員全体が特別支援に対する力を向上させる。 | | | 特別支援教育 | c7 | | |
| 児童生徒指導 | ①児童支援専任、担任、学年、指導部の連携を密にし、役割と指導を明確にした児童指導を行う。②職員スローガン「CHA CHA CHA ICHIBA」の下、地域・保護者と連携し、児童一人ひとりが学校内外で自己有用感と自己肯定感を数多く感じることができるよう努める。 | ①児童支援専任が調整役となり、組織的に対応を行うことが定着した。学級数が多い中である学年が足並みを揃えて対応することができた。②運動会や授業参観など、保護者・地域が参観できる機会を増やしたことや一人ひとりの活躍の場を設定したことで、子ども意欲や自己肯定感を高めることができた。 | A | 児童生徒指導 | ①指導部を中心に据え、児童支援専任、担任、学年、専科担当等の連携を密にし、役割と指導を明確にした児童指導を行う。②職員スローガン「CHA CHA CHA ICHIBA」の下、地域・保護者と連携し、児童一人ひとりが学校内外で自己有用感と自己肯定感を数多く感じることができるよう努める。 | | | 児童生徒指導 | c8 | | |
| 安全管理 | ①過大規模校下での学校生活環境の状況を職員で共有し、安全指導の充実と児童指導の徹底を図り、学校事故防止と重大事故発生防止に努める。②学区の通学路をはじめとした安全確保、安全指導、災害発生時の対応や訓練等を、引き続き行政、保護者、地域住民と連携して進めていく。 | ①「市場スタンダード」で安全面の共通事項を全職員で確認することやミラ임、打ち合わせで指導内容・方法を伝達した上で学級指導を行った。しかし歯の損傷事故が続くなど、さらなる手立てが必要と考えた。②様々なパターンの避難訓練を計画的に行うことができた。 | A | 安全管理 | ①過大規模校下での学校生活環境の状況を職員で共有し、安全指導の充実と児童指導の徹底を図り、学校事故防止と重大事故発生防止に努める。②学区の通学路をはじめとした安全確保、安全指導、災害発生時の対応や訓練等を、引き続き行政、保護者、地域住民と連携して進めていく。 | | | 安全管理 | c9 | | |
| a25 | | | | b10 | | | | c10 | | | |
| a15 | | | | a15 | | | | a15 | | | |
| ブロック内評価後の気づき | 鶴見ふるさと科の新設に向けて話し合う中で、担当者内で各学校の課題と目指すべき姿を共有することができた。3校合同ブロック研修の中で全教職員に周知を行ったが、意図や目的が完全には共有されていない発言が多かった。今後、実際にカリキュラムをつくっていく中で意図や目的、目指す子どもの姿を共有することが大切であると考える。また、地域の材については引き続きブロック内3校で情報共有を行い、新しい材の発掘や同じ材でも取り上げ方やねらいを明らかにすることで価値あるものにしていく必要がある。 | | | ブロック内評価後の気づき | | | | ブロック内評価後の気づき | | | |
| 学校関係者評価 | ○市場小が本校と分校で学年別で別れたのは、地域の強い願いの表れである。一方、当時の準備部会では意見は6対4くらいで分かれていた。学校に困ったことがあれば学校運営協議会で支えたい。○今年度の運動会では応援団やリミックスがよかった。保護者としてもこのような形で開催していただき感謝している。○教職員にはこれだけの伝統と規模がある市場小学校の職員であることに誇りをもって取り組んでほしい。 | | | 学校関係者評価 | | | | 学校関係者評価 | | | |
| 中期取組目標振り返り | この1年間「子ども一人ひとりを大切にしながら、自己有用感に基づく自己肯定感や自尊感情を育て、まちととも歩む学校」を目指し、共通理解を大切にしながら取り組むとともに、「コロナ後の新しい学校のあり方を模索しながら着実に学校経営を行ってきた。今後、本校特有の課題である過大規模校による弊害を解決しながら、この特徴を生かした教育活動を行い、子どもたちの活動を充実したものにしていきたい」と考える。 | | | 中期取組目標振り返り | | | | 中期取組目標振り返り | | | |